

第12回 東亜日報を讀む会

1975年10月25日(土)

於：大阪市立労働会館

目次

-特集- 「きよらかな明日」のために

(韓国における公害の实態)

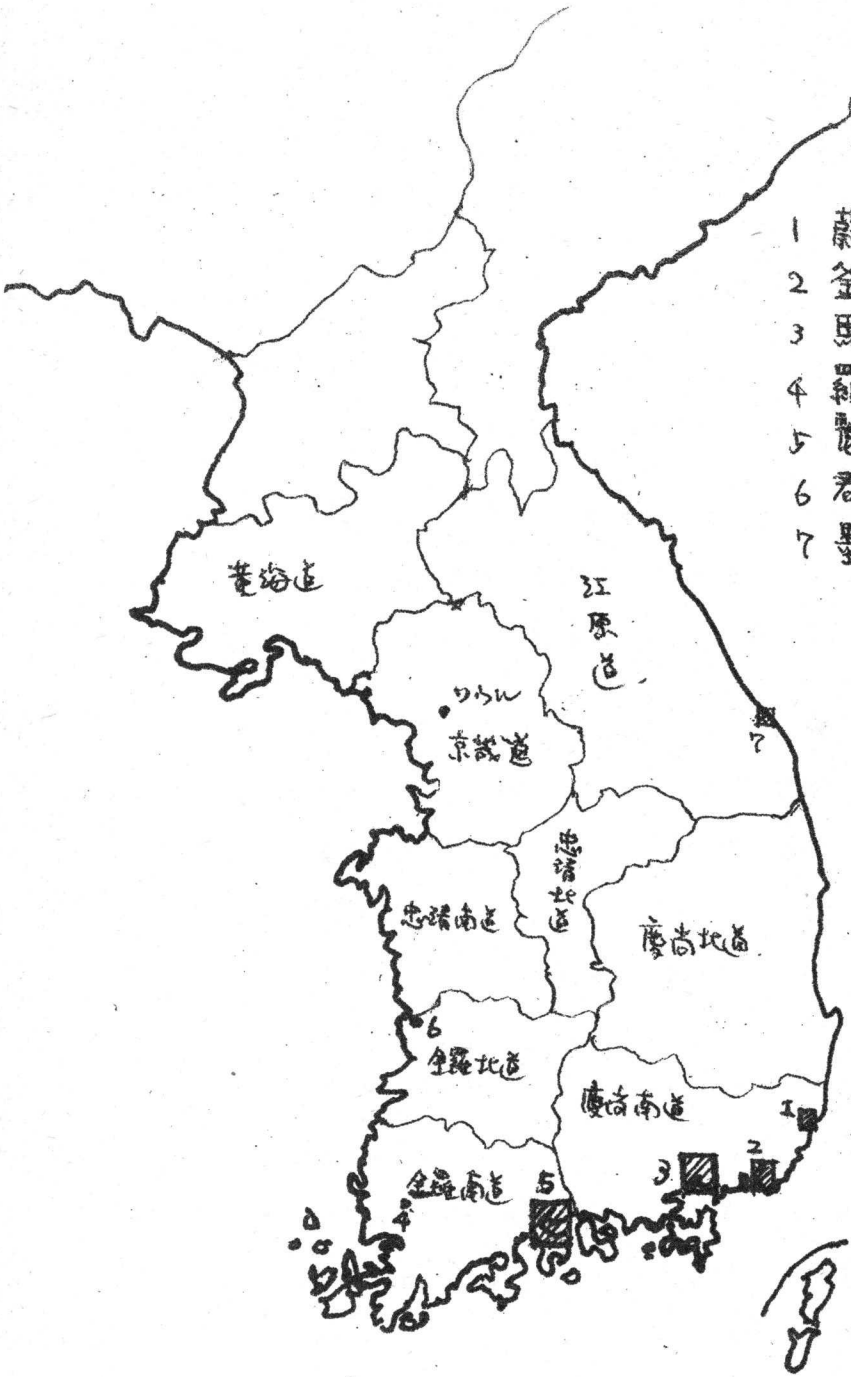
第1部 汚染の实態 その1.

1.	蔚山	(9.8)	-----	3頁
2.	釜山	(9.9)	-----	7頁
3.	馬山 鎮海	(9.10)	-----	11頁
4.	羅州	(9.11)	-----	14頁
5.	麗水	(9.12)	-----	17頁
6.	群山	(9.13)	-----	20頁
	地図		-----	1頁
	ゴバウおじさん		-----	24頁
	新しい方向をさぐる歌謡界	(10.4)	-----	28頁
	大衆歌謡 俗曲禁止	(10.2)	-----	30頁
	千余撤去民不厭	(10.7)	-----	31頁

「東亜日報を讀む会」

神戸市垂水区夕陽台3丁目10-25-201 飛田 方

TEL: 078-781-8677



- | | | |
|---|----|----|
| 1 | 蔚山 | 山 |
| 2 | 釜山 | 山 |
| 3 | 馬山 | 鎮海 |
| 4 | 羅麗 | 州 |
| 5 | 麗 | 水 |
| 6 | 群 | 山 |
| 7 | 墨 | 湖 |

너무늦기前에 公害對策을...

未然に 公害對策을.....

蔚山



「キヨラスカシタ明日」のためには

「明日」を汚染のためには

第一部 汚染の實態 1

ウルサン
(1) 蔚山 (1975. 9. 8. 付)

〈編集者註〉

「公害」。それは、今や他人争ひおぼい。工場のみならず、自動車の煙煙も、都市の騒音も、住宅の汚物も、すべてが我々の「青い」空を破壊する要因である。それは空気を通して、飲食物を通して、目と鼻を通して、我々の健康をまじはむ。おとなが、子供が、やがておぼい、大きな稚もはらみ養育してゆく現代社会、工場も作らねばならず、車も船も往來しおぼいおぼい。しかし、おぼいの知恵とあわせて、最大の公害もはらせおぼいおぼい。ごみおぼい、おぼいおぼいおぼいおぼいおぼい。今が最期である。おぼい、手

は、日に数人が入って来た。有毒物質が原因で、肺病、
し、眼疾を病みだした、という。要員の他に、いつも頭痛と訴える住民も多い。
この住民は、鼻にまでおけておくことができない。黒い煤煙が、窓から入っ
て、寝具が真黒に汚れるためである。

がまくてこない住民たちは、同じ着ていくつかの陳情書を出した。その結果、発電所
側は、気圧が低いときは出力をおとし、公害が集中的に発生する6月から9月のあいだを、
整備期間として、3台の発電機の内1台を停止している。そして、昨年は、医務室を
解放、住民168名を診療し、今年は発電所のおよりの社宅の中に簡易診療所を設置、
住民への診療を行っている。今年には、現在までの診療実績は、240名、しかし、
簡易診療所は、看護員1名と、不潔なベッド2台がしかけられて、施設と専用品が、
非常に不足しており、辛うじて、木葉と消臭剤を与えている程度である。

これ以前に、1962年、蔚山工業団地が起工され、64年蔚山精油工場が、
そして、67年には嶺南化学、韓国肥料、エニオン化学などの各種工場が相次いで稼
働しはじめた。羅州はもと、味が良くて有名であった蔚山梨の産地、黄色になりやせ
おとろえていった。蔚山市内の梨畑は、工業団地が入ってくる前には、60余万 m^2 に達して
いたが、今は20余万 m^2 に減ってしまった。工業団地からは出される有毒ガス
は、葉が落ち、ついに草から枯れてしまうのである。生き残る木も収穫量
が大減少し、蔚山梨組合の統計によれば、従来のもので、5,000kgが、3,500kg
に減少した。貯蔵・輸送途中の腐敗率も高く、20%に達しているという。加害会社
から一部補償されているが、今更には手をとるに及ばず、その有名な「蔚山梨」が
永遠に取れなくなるであろう。そう遠くは引かぬ。

また、工業団地の排水は、海に流している。蔚山湾には、天と地と
養殖場である蔚山湾に、わかゆ、あかぬ、ウニ、草などの海藻類と、はまぐり、
ソノゲーなどの貝類を養殖して生計を立てていた。魚も多くとれた。しかし、工業
団地から各種排水が流れ出るようになってから、多くの海藻類と貝類が腐死してこ
とはもちろん、魚もそれまでおり回帰しなくなり、生産量が毎年大きく減少している。

たぐの洞に、10余代生活してきたという李萬石氏(68)は、「ここからは
魚が取れなくなり、海からは魚がとれなくなり、……」と、先祖代々の生業が、
打撃を受けたことを、せつなく思っている。

蔚山マッセ浦、韓江の河口は南海の美港であった。しかし、精油工場
が立てられ、タンカーが出入りするようになってから、青かった海が、油で汚染さ

れぬが、往來する油桶送船が、やたらに海に油を流す人がいた。海には、(區がかり)のかわりに、油が流れている。

その結果、瀬川が、足跡をたどるようになっていき、今は、漁港のみでいっぱい。ここから流れ出る油は、セナ郡ソニ面の千海木浴場に流れ、遠く釜にまで達している。いん海木浴場にまで及び、沿岸を汚染している。

この江河口、トバツ島と細竹の渡し場は、漁人は生鮮市場で売れば、海産物だ。しかし、今はもうそれのことである。魚もとれなくなり、むしろ新鮮な魚を食べるとやってくる訪問者も少ない。

工業団地の中にあるエニヤ国民学校の子供たちは、風が吹けば、いくら、下気があっても、窓をしままま、授業をしなければならぬ。岡山ア一埠頭の技術職員たちは、アノまをまて障子紙で、おまてしている。それとも有毒ガスが入ってきて頭が痛い「一年交代勤務」を、工部に要請している。数年前であるが、このエニヤの野田タツから塩素ガスがもれて、約100余家族の住人たちが頭痛とほてり、深夜に搬出する騒動をおこし、先月5日には、岡山ア二埠頭韓肥料の尿素工場合成塔からアノエニヤガスがもれ、400余もの荷役労働者が、同じ症状となり、作業を中止したこともあるという。

岡山保健所では、公害対策の器具として「環境計」が設置されている。しかし、職員はせいぜい3名、整備予算も決まらぬばかりはなっていない。

この工場についても、何人の公害職員がいるのか、ほとんどわからない。道に、保健衛生課と衛生試験場があるが、問題が発生したとき、公害測定をまねておわてたことが実情。

「工場もよく建て、輸出も多くはあり、そして、私にしろよく生活できるよにばった。しかし、これととも、累積したものは大禍を招く『公害』、それに手おくれにならばいさ、みんなが懸念を持ち、『防止』のたぬ知識を出しおわておわて、なげいのふはたれしようか。」

あるおとばい主人の言葉に、おまがうばあひだ。

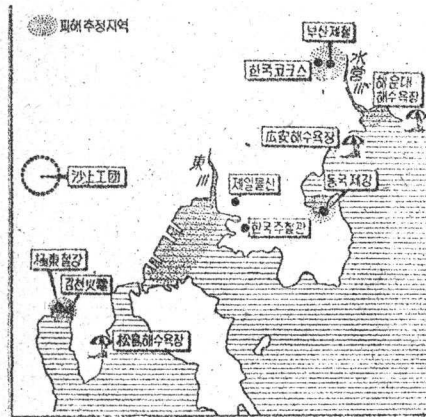
〈成栄祐、金野記者〉

(談. Y. H)

2. 釜山(早仕)

1975.9.9付

“連続的拡散・蓄積を防ぐには”
“都市・産業公害の相乗作用”



釜山の公害は、工場の煙突から出される煤煙と排水汚物による河川の汚染に大別される。しかし、排水と各種船舶による港湾の汚染は、今では大して心配されていないが問題点としては指摘される。

韓国コークス(李明根代表)の工場の煙突から出される煤煙と貯炭場から出る炭の粉で大きな害を被っているトネ区ナンミン洞ナンミン住宅団地を訪れて見た。

煤煙が粉の様に飛び散って行く。去年の秋、ここナンミン住宅地に新築された(30戸の全ラビ(?)家は)こぼれいであく道端で遊んでいる子供らの顔は皆一様に煤煙と炭の粉ですすりていた。

ここは、元々埠工業地区であった。韓国コークスを初め、10余個の工場が立ち並び、工場地帯であった。しかし、都市の人口が増え、宅地の需要が湧くや、釜山市は去る73年12月31日からこの一帯の用途を住宅地域に変更する旨を告示、住宅の建てられるようになった。

ナンミン住宅団地は、韓国コークスの工場とすぐ堀一つ隔てて建っている。融資金は200万ウォンと少く、家の値段もいくらか安い部類に入り、1戸3部屋の家を建てると、自己資金がいくらか足りなくても「我が家」を持つという魅力で飛び様に売れた。そして昨年11月末には入居が全部完了した。しかし、この住民らはや、とこのことで我が家を身に入れホッとした気分にはいる間もなく、荷をほどくやいなや家を間違えて買ったことを後悔

しなくてはならなかった。

言うまでもなく、韓国コークスの工場から出される煤煙と有毒ガスのせいである。煤煙と炭粉の為に家を訪ねて行くことも洗濯物を干すことも出来なかった。工場の隣りに住んでいる金遇成(召平君,キム・ウソン)氏(55才)の場合、舎拉旦那家の通気孔が炭粉でふさがっていた。無煙炭をいふいた有毒性の匂いで頭痛のすることが多い。気圧が下れば更にひどくなる。工場側は、この月に集塵機を設置して部分的でけあるが貯炭場に二枚銃手の塙も建てては見たものの大して効果はなかった。

家を売りに出すにも買い手がつかず、借り手も現われなかった。しかしながら、コークス工場の立場も同情される。当初、工場はここではなく、市内ホミル洞にあつたが、ホミル洞が住宅地になるや66年追われるようにここに移つて来た。

ナンミン住宅地の場合、周りの事情を正しく見きわめずに入居した住民と商売にのみ張々とした建築業者、ここに建築許可を与えた市当局、公害防止設備をふらりと備えなかった工場側など全ての責任である。

しかし、一面、都市の住宅難と宅地街に追い出される工場の気の毒な立場が韓国的公害の一断面を示している様に思える。

カムチョン湾にあるカムチョン火力発電所の煤煙も海と大気を同時に汚染している。去る69年9月に、集塵装置を設置したが、まだ多くの煤煙が出ており、近隣のカムチョン1,2洞、アミ洞と遠くチョンマ山を越えトンデシン洞に至るまでその被害を受けている。集塵装置が工場にとりつけられても、修理期間中には煤煙が途方もなく出る。

一時は、発電所の煙突から出る亜硫酸ガスの為に付近一帯の樹木が枯れてしまい、野果畑が全滅したとも言われている。

その上、市内一部の銭湯は、石油の値段が高いと言って車の
タイヤの切れ、端やお風呂などの雑燃料をまたらに使い
大気汚染に輪をかけている。ヨソ、洞トングクテ川やソ区
ピョン洞クドントヨル川付近は真昼間も霧がたつこめる日
が多い。

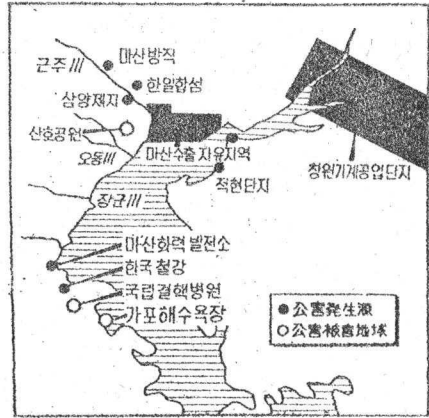
釜山は確実に汚染され始めている。しかし、悲観はして
いない。まだ、全体的には空気がきれいだし空は青い
と言える。海も従来同様である。しかし、その「まだ」が
問題である。たとえ、部分的ではあるにしても汚染は
連続的に拡散・蓄積している。釜山の公害は、どの都市
にでもあてはまると言えるだろう。それ故にこそ、今この段階
で手を打たねばならないのである。

ソ
<成記者>

3. 馬山・鎮海

“療養地も煤煙の被害受ける”
湾口狭く自浄作用鈍い

海が見おろせる馬山のサノ公園には、鷺山・李殷相(ノサン・イランサン)の「カゴバ(行きたや)」の碑が立っている。「私の故郷は●の海、その青き水眼に浮び、夢にも忘れられようか……」鷺山は子供の頃の故郷の青い海を忘れられず、このように歌った。



「南の海、その青き水」は、当時故郷を離れたすべての人々の心の故郷であり、今は都会人の精神のいこいの場だともいえる。しかし、鷺山が夢にも忘れられなかった馬山の海は、もはや青い海ではない。

各種工場からたれ流される廃水と、馬山港を出入りする各種船舶の廃油、市街地の汚物で、馬山港はとて黒く汚れた。馬山で青い海を見ようと思えば、船に乗って少なくとも8km●がり沖へ出なければならぬという。

馬山を最も汚染しているのは、市内の中心街を通って海へそそいでいるクンジュ川である。クンジュ川の中流地点には、韓日合併の馬山紡績などの各種繊維工場と、三養製紙などの製造工場が位置しており、廃水をたれ流している。染色に使う化学薬品と油、繊維質などが入り混じった廃水のため、以前は水浴びまでできたというクンジュ川は、とて腐ったような臭がににおっている。このクンジュ川は、馬山輸出自由地域から捨てられる廃水までも、海へ流きこんでいる。そのほか、市街中心部をめぐって馬山阜頭へ流れてくるオドン川、カシゲン川は、各中庭から捨てられる下水もまた、糞尿、ごみなども馬山港に運

び込んで、やはり青い海を望んでいる。

馬山湾には自浄作用が難しい立地条件がある。湾口が狭く海水の交流が円滑でないためだ。いわば溜り水と似ているのである。したがって汚染された水をきらいにしようにするには日時がかかるわけだが、工場廃水と市街地の汚水は、そのみを与えられない。

馬山と隣接した昌原郡では、およそ1,300余万坪の広い地域に昌原機械工業団地が造成されている。この団地の中には、すでに12ヶ工場が入住を終え、来る81年までには各種機械工場104個が入る予定である。その場合、昌原工団の廃水はすべてポニアム川に流れ込み、馬山湾に至るため汚染度がさらに高くなることはまちがいない。ポニアム川の「コシラク」(うぐい)は高潔なソンビ(官職につかない学者)も楽しんだと意味の「コシラク(高士楽)」が変じた言葉だといわれる程有名だった。しかし馬山の名物であるこのコシラクの養殖場も、昌原工団が入ってくるにしたがい廃場される状況となっている。

馬山は天然の療養地としても有名なところである。時に馬山のユルグリとカホ海水浴場を狭むカルビホーシ一帯の風致林は有名である。ここには国立結核病院があり、その途中には国軍総合病院もある。しかし、この療養地も工場の煙突からはき出される煤煙の被害をこうむっている。韓国釜山と馬山火力発電所など、馬山湾に位置している工場の煤煙のためである。

結核病院にまで煙がたがり、カホ海水浴場は水が汚れ昨夏には一時水泳禁止措置も出された。それで昨夏馬山では、遊船業者がうまい汁にありついた。カホを求めてやってきた海水浴客が、海に入らず、青い海を求め沖へ出て船遊びを楽しんだためである。

しかし、馬山と隣接した南の近海の鎮海は、また大体においてきらいである。たゞ鎮海化学(第四肥料工場)が、海のほとりに位置し、亜硫酸ガスを出し、廃水を海水

しているのが問題である。鎮海化学から出る亜硫酸ガスは濃度が
高く、風がない日には近隣の部落に拡散し住民を苦しめている。
特に春にひどく、夏にはトウカン洞、イ洞、ソウ洞部落が、秋には
チンカン洞、冬にはハンア洞洞一帯が被害を受けている。

この工場の廃水もまたひどい。工場から水路で約7km下
った海べにある昌原郡ラントン面ヨンウォン里部落が、被害を受
けている代表的な部落である。ここは麗洛国の太宗金首露（
キムスロ）の王妃、晋州太后許氏が、石舟に乗って天竺国から海
を渡ってやってきたという由緒深い村である。

この村の近海には、王妃許氏が乗って来た石舟が島となり、
今も海中に浮んでいる。この部落の住民は家族は、今まで
も3年間、鎮海化学に対して訴訟をくり返している。

住民は鎮海化学の廃水のために、のりの養殖場がすべて使え
なくなつたということで、その損害賠償を主張している。住民の主
張によれば、2069年水産庁、水産振興院、そして慶尚南道当
局の協力誘にしたがい、ヨンウォン湾一帯にのりの養殖場を作
ったが、その年の冬鎮海化学の廃水が北西季節風に乗って押
流され、養殖場をまったくダメにしたというのである。鎮海化
学が汚染源だという事実は、釜山水産大の元鍾勲（ウォン
ジョンフン）、姜悌源（カンテウォン）両教授の現地実験結果か
らも明らかだといふ話。

住民は合わせて3億り、500万ウォンの被害保障をせよと要
求している。住民だけでなく昌原郡庁でも鎮海化学に対し同じ
理由で現在2億2,700万ウォンの損害賠償請求訴訟を釜山地
法（地裁に当る）に出している。しかし、このような住民の主張に対し
鎮海化学側は、鎮海化学の設置の方が養殖場より早く、のり
事業の失敗原因が鎮海化学の廃水のせいだけとみることは難し
いという理由をあげ、張り合っている。

とにかく、現在訴訟は進行中で結論は出ていないが、住
民の中には、勝訴したとしても訴訟があまり長びけば、得した
心算には思はないという人も多い。

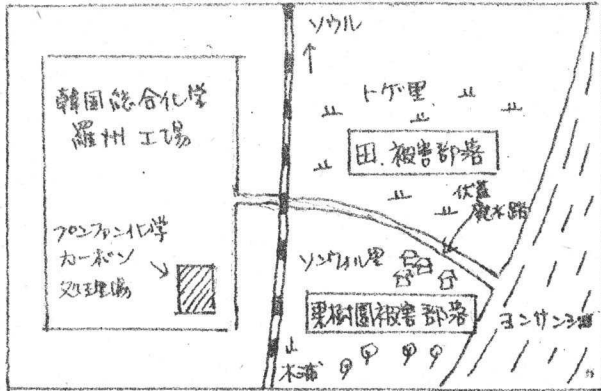
〈成榮記、余泰燮記者〉

4. 羅州 (江平)

1975. 9. 11 付

被害地域 「石炸梨」 味落ちる。

梅雨時は 水田 7万坪 乾水になる。



「羅州」といえば、水が石を木葉落る梨を思い出す。しかし、この頃「羅州梨」は肥料工場のアモニアガスとカーボン粉に汚れ、収容と失われてきている。今年も公害地域の梨の木は、初夏から葉が枯れ落ち、梨は大きくなって、固くは、水と住民たちは苦情をいっている。

秋に結実した梨も水気がたか、黒く枯れ落ちた枝がまばらにふりまかれる。勿論、羅州梨全体がこのようでもなはい。韓国総合化学羅州工場附近 10万余坪に及ぶ常習汚染地区内の果樹や農作物は、肥料工場が出来てから大きな害とこのまわっているという話である。

全南羅州郡羅州邑ソウル里、肥料工場アモニアガスから吹き出す煙にまみれて村に入った。あせりた小石のまわりがあたりで目に入った。文が1m内外のまわりが振りまわると、小石は花と咲かせたまひからびていく。葉をまきるとハカハカとくすくす音。洞内及びその植わっている種の木。庭先の中で枯れかすや深山のやみる間葉樹の葉がまばらに枯れて、秋でもはいたく落葉がふるりまわっている。頑丈なからん木は根が土片隅からしぼれいくこともある。全てが肥料工場せいだと住民たちは主張する。

63年当時湖南(空谷 村)肥料で、工場が稼働して以来、住民は地域発展という自身と精神をもた喜んだ。しかし、この工場から吹き出す毒ガスに取られて、2人3人からアモニアガスと、農作物の生育がまじまじと結実がやぶることに失望していった。ガスをうける屋根の天井がひびきかたけ穴があき、金釘が落ち、1、2年ともたか、先端が崩れ落ちていくともいう。工場周囲、ソウル里、トナリ一帯は、いつもガスのため目がまわり、鼻が痛く、胸が苦しむこともあると訴えた。

工場に隣接し、羅州国民学校児童のいる、登校の道にガス吸着装置を感する
こともあったという。ある看護婦は胃に虫を打って投棄しているが、苦痛を感じる児
童が73年まで12ヶ月ある時は1日に10余名までいたという。と伝えた。

かみん企業は住民に対し数回に亘り陳情、抗議書等にて公害防止施設をつくる
よう工場側に要求した。しかし、赤字運営の中、湖南肥料は手と尽すばかりで、73年4
月、工場が韓国総合化学に吸収された後は、74年2月 廃棄ポンプ回収施設を備
えたとはいった。

かみん会社側は昨年からは有毒ガスを放出した。直ぐ7月、全南道衛生試験所
の公害測定値がかなり基準値以下であると検査して、害がなかったと主張した。住民は
不信のようである。住民は今も最も、日や停電になると時は前利が少なくなる。かみんも有毒ガ
スを放出している。出ているガスが1、2回でも農作物にかかると被害をうけると語っている。

工場から50余m離れたソングリ里の熊木玉(ポンチ)氏(61)は2,700坪の果樹園に
梨の木122本を植えている。工場が入る前には年平均1万貫内外の収穫をあげていたが、
昨年には僅く100貫を得、今年も1万円ほど日本円で、今年も売るとも出来ないと主張し、
去年より梨の木が10余本枯れている。数年前からは梨の木の間を植えた、さつまいも
等の間作もできず、果樹園が支えられなくなっている。

ソングリ里(2里長)の金(た)氏の葡萄畑でも1株当たり20貫ほどしかの葡萄が5貫程
ほどに落ち、今年も5割の摘み取りは行かないと嘆息。それとなく木も枯るといった。

トナリ一帯(ソングリ)沃田の稲作も、この地域の畑の間をめぐりソングリに入る工場
廃水路の拡大に害をうけている。この廃水路は1日2,400トンの汚水が流れ出る。会社側
は伏蓋廃水路の拡大、畑に流水を心配はす。汚染物質許容量も基準に達しないが、
廃水公害はないと主張する。しかし、昨年8月梅雨時、ソングリ江が逆流して廃水路の周辺
附近一帯、17万余坪の畑が廃水に汚れる。翌朝稲が大部分枯れた。会社側は農
民に対し被害補償としてけいはいはった。そしてこの廃水は身体に汚れる、ソングリ不
飽和面、ソングリ面、500余名の住民に足の指に炎症がおき、皮膚病をおこす

こどもお、くという話ではある、

ここの廃水路のそばには確認されていないが、ここから工場への汚染、873年度衛生試験所の水質検査の結果では、淡水魚が生きられない程に酸素が足りないという。工場南側に5kmほど下った73年和川には有名でお、くが住まうと、田舎の川に汚染状態に至っている。

工場側もその間、多少の重篤な農作物被害に対して住民に年一回ずつ補償、相模門の公害被害と認定している。63年以降補償された果樹被害だけでも59,700株、農林耕地被害697,000坪で、被害総額は4,958万余円に達している。

しかし、住民としては会社側が田んぼに与える部分に対してだけ補償しているのでは、荒廃化した農地と家屋などの被害は名をいふほど主張する。会社側は常習被害地域の経年時価調査の結果、7億円という額がでるや、手を出しては、段々(ウチノボ)原務部長は「7億円は銀行にお、くをその利子で多少の被害補償であるか、はるか安く買収した時、これは7億円で買収した、その時中央の監査のやりこはる」といふ。

最近では会社側が廃水処理過程を任せ、70年代化学のカーボン工場から黒いカーボン粉が飛ぶ、井戸の水をこぼれお、くする。洗濯はもたない、臭いも都度カーボンでかきお、くする。このお、くは「目には見えないカーボン粉のにおい、神経がうごめく」といふ。

しかし、何れも重篤なことは汚染された工場から生ずる米、野菜と果物を住民が食うのは、食中毒の事実であると感ずる。

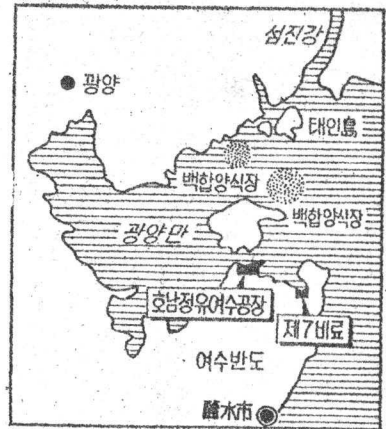
〈鄭永宗・金泳燦 記者〉
87-7-23 14:37

麗水

港口には廃油・ゴミ累積

“養殖場被害

……公害のひどい工場を”



夕暮れごろの港は、発動船の騒音と煙

とハンマーの音、漁夫たちのあわただしい動きで

ざわめいている。日に400余隻の漁船と旅客船がしきりに出入りしている麗水(ヨス)港——。船倉には出漁を待つ100余隻の小型動力船などが、頭をくっつけ合って休んでいる。その向を、近頃、見かけるのがあればカメ×1, 2羽が円を描いていたが、エサを探せないのでそのまま飛び去った。数十匹のサンマがどす黒い水面をかきわけて群泳ぐが、カメは食べなかった。水鳥たちも港ではきれいなエサを拾えないのだろうか。

船倉と防波堤の築石が油でどす黒く汚れ、石碇泊中の船や隣り合せの住宅街、商店街から捨てられたゴミがあたりを漂っている。桟橋のあたりではロンパク坊主たちが水中に潜っては暑さをしのいでいる。水から現われた子供の腕などに油の染みがそのまま付着している。

埠頭のへりにある50あまりの生魚坐板台では、商人が永らく魚を洗う水に海水を使っている。水協麗水共販場でもこの海水をポンプで引いて、一日に数百トンずつの生魚を洗って塩漬けにしている。生魚の鮮度維持のためにはまだないが、やはり、海水を使わなければならぬとのこと。

防波堤のすぐ横のヨンドン川を通じ、近隣5ヵ洞の下水と市内の一部工場の排水までが港口に流入して、海の汚染はよりひどくはっている。

二、三年前、道(注、全羅南道)衛生試験所の水質検査で、大腸菌や一般細菌ほか、予想をはるかに上回る結果が出て、市当局はこの水で野菜や生魚を洗わせまいとし、水泳も禁止したが、あまり効果がない。

ある飲食店の女主人は、「毎日、みんが何かくゴミを海に捨てているが」

「汚れた海を見ると心が痛い」それでも海水汚染を抗議したり、浄化しようという前力をあまり払おうとしない」と語った。

駆動船の廃油とゴミ、住宅街の汚物、排水などで麗水が泳い向、自然に汚れていったのは異なり、馬麗川(ヨクヨン)郡、光陽(コヤン)郡の光陽湾一帯では、湖南精油・麗水工場が主たる海水汚染源だとして問題になった。工場の廃油と有毒性化合物のために、2~6km離れた骨若(コリヤク)面ヘイン島のハマグリ(白蛤・明哲)養殖場がだめになったと、養殖業者たちが会社を相手どって損害賠償請求の訴訟をおこした。

訴訟のためかどうかはわからないが、精油工場の前の海は最近、きれいな水面とともに以前の姿をとりもどし、ミョウ島の海ほどでは操業中の数十隻の漁船も見え、干潮時なら工場付近の浜でも妊婦たちが貝を取ることもある。

しかし69年当時、工場稼働とともに油槽船の出入りもいんぱんになり、光陽湾一帯に流入した廃油が、海面を島のように漂って汚がしたのを、しばしば見かけ、ヨクヨン郡サミル(三日)面サッポ里一帯1,2kmに至る海湾の小石や砂が、油の沈澱物で汚れたことほど、漁民たちは直接、目にしたと語った。

昨年には麗水近郊のマンソンリ海水浴場に突然、廃油が流入し、泳いでいた住民が待避するといった騒動をもたらしたとのこと。

光陽湾一帯のハマグリなどは、わが国の貝類総輸出量の70%を占めてきた主要な魚種。養殖業者の崔丙錫さん(43)ら12名は、工場が建った次の年からハマグリが腐ったり群れ死にして、年商3億余りウォンの収益を上げてきたハマグリの養殖が不可能になったと、主張した。ハマグリは他の貝類と違って、月の動きにつれ水中を泳ぎ回る。したがって水面の廃油に接する村会が多く、反応も敏感だとのこと。

会社側は、廃油や排水を全く出さないとはいわれないが、公害許容限度には遠く及ばない量であるから、精油工場とハマグリの死は直接関係がないと、主張している。工場長李鐘根さんは「ソムジン江の、農薬・肥料で汚された水も光陽湾に流入して海水汚染のひとつの原因によって、湾自体の環流がうまくいっていないのも問題である」と語った。

しかし、訴訟は去る2月、ソウル民事地法(注、地裁のこと)で原告に3億8800万ウォンというわが国の公害裁判史上、最高の補償額を支給せよと、原告の勝訴判決が出た。会社側はこれに不服、二審に抗訴中である。

廃油汚染の論戦のほか、光陽湾のハマグリを主とした漁業は続けられ

らぬ、昨年、貝類の水揚げだけでも、2億8000万円に達している。¹⁷「ハマグリ
ほど以前よりよくはるとは思えないが、訴訟関係もあって……」光陽郡漁村契
長・崔享植さんは、被害状況の向いに言葉の最後をほやす。

訴訟が持ちこたへば、原告側である養殖業者、被告側である会社、さらに
法院(注、裁判所)などは、国立水産振興院、釜山水産大ほど权威技術陣を
動員して、光陽湾水質汚染の原因究明に乗り出した。決果いかんが光陽湾は、
わが国の海洋汚染の現状と原因を科学的に明らかにする手本となるようである。

数億ウオンの利害関係が絡んでいるせいもあるだろうが、西方共が水質汚
染に対する¹⁸論難を続けていること自体が、公害追放のため、一歩を踏み出すこ
とにもなる。そして今のところは光陽湾一帯の海水汚染が、海を捨棄しつづけれ
ばならぬ程に深刻な状態では無いといった反証もできるようである。

しかし、麗水と光陽湾一帯の住民たちは、現在の湖南精油よりは将来、ヨ
ンナム郡サミル面一帯に進出してくる総合化学系列工場のため、更に緊張している。
すでに着工したサリ肥料工場をはじめ、メタール、ナフセほど石油化学工場が
稼働する場合、現在より数倍も深刻な海水・大気汚染など公害被害を受けつづ
れなければならないのが長をもうけている。サミル(三日)面、ソラ(日羅)面、ヨル(栗村)
面に面したホアングム(黄金)漁場をはさんでいる1千余の漁民たちは¹⁹「工場が進
出してくれば、カキ、シジミ、トリ貝、エダマ(?)、海苔なども水質よく収穫してきた
海を捨てて、他の場所をさがす他はない」と話す。

産業基地²⁰南莞公社から一戸当り2万ウオンから18万ウオンまでの埋立地漁
場に対する先補償を受けた住民たちは²¹「このカネでは生計を立てるにはほい、
²²「国家基幹産業として、重化学工場が進出して来るので、住民の小さな犠
牲は耐えるが、公害の多い工場は建てるべきではない」と肉返した。他の工
場も湖南精油・訴訟事件を手本にして、完璧な公害防止施設をえほえ、工場
も順風満帆、住民も安心して暮らせることが出来る知恵が、ど²³ににしても欲
しいようであった。

(鄭求宗・鄭基勉 記者)

事業場公害の危険信号を示している。吳俊植(오준식)事務所長は「今のうちでも遅くないから、工場側の公害防止施設をちゃんと整えなければならぬ」と語った。

群山では、この他に、群山沖の海洋汚染にも手を付けなければならぬようだ。埠頭で網の舟入れをしていた漁夫申富吉(신부길)氏(39・号子郡号子面삼평里)は、「4,5年前でも、船を出して10時間保りも行けば、魚が多かったが、今では60時間保りも行かなければ本当に操業にならず、漁代もべらぼうに食う」と語った。彼の所有の25トンほどの小形漁船 대동号で港口から200余マイル、우마이어청島, 격렬비列島の中でも40余マイルは離れなければならぬ、という。また、漁夫崔聖基(최성기)氏(52・号子郡川面여청島)も「数年位前まで、群山沖で漁をとっていた子だけでも生活ができたのに……」と顔をくもらせた。それが直した海水汚染のせいでは言えないかもしれないが、沿岸が汚れてきていることは事実だった。

市内の下水とごみ, 汚物および工場廃水などは流れて海に行く。群山埠頭は水深が深く、磯が多く、沖などの程度汚れているのだから正確な識別できない。しかし、73年水産振興院群山支院が群山沖の水質汚染度調査をした結果、浮遊物質, 酸素不足などが基準超過となっていた、という話。

同支院海洋資源室の一研究官も群山沖で貝類が減ったことを是認しながら「市内の工場廃水, 農薬使用などは規制がなく、水質汚染を調査するだけで問題が解決するのだろうか」と言って、複合要因による海水汚染を心配していた。

また、群山地方で問題となっているのは大量の農薬使用による被害のようだ。群山のあふ有志は、煤煙, 廃水などの汚染も心配したが、度を超えた農薬使用が最も大きな問題だ、と語った。

市内をなぞれた、全州~群山間を直線でまっすぐ伸びる道路の両側に限りなく広がった平野では今、数年以来台風にあつた農民たちが黄金の収穫の心をきめかして舟入れた忙し。帽子をかぶり、黒いサングラスと白いタオルで口まであおって、噴霧器で農薬をまく若い農夫の姿が、まさに西部劇映画に出てくるか

何れの男を連想させる。また、おたわらの田んぼでは、二人の夫婦が真円い風船形の農薬撒布器の両側をもって歩きながら、くりかえし顔にふりかかってくる農薬の粉をキではぶきのけする。平野を走りバスの中にまじりときたま農薬のにかいか、フーンと漂ってくる。

「以前は、群山市内にどしよす計屋が12軒ほどあったのに、数年前から一軒、二軒ずつ門を閉して、今では1軒もなくなってしまうよ。」バスを共にしたあ子乗客の語だ。「昔はピチピチはね上がるとどしよすを見ることができたのに、数年前からは死んだどしよすを売りに来る人が多くなりましたね。最初は知らず知らぬうちに値段で買ってどしよす計にして売りましたが、それが農薬のためには田んぼや小川で死んで浮かんだものだという事実を知ったのは、どの飲食店でも買おうとはしなくなりましたよ。密に害があるかと思って……。」あ子食堂の主人の言葉のように、近頃群山市近郊では死んでいるどしよすを求めるとは難しくなつた、という。目に見えず、土に浸み込ませる有毒な農薬、それの与える害毒が今後一層問題になるようであつた。

< 鄭求宗、張潤徳記者 >
정구종 장윤덕

10/1



人口調査の結果に、
何事か判明し得ぬ。



蜂群か蜂刺。



ヒトは蜂群か鼠群に
似て居る?



と云ふに蜜を搾りし
自分の口に入るハ蜂
と、人か蜂か鼠かを
適当に食入の可なり

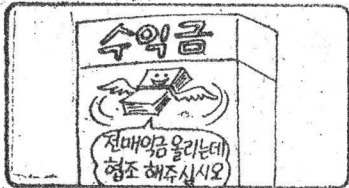
10/2



ファッションショ-
包裝を随時
代へ替る。



命名大家
名を頻りに
研ぐ事。

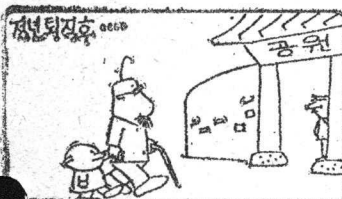


収益金
専断利権と
上げの力に
下す。



姓奉の弟と云
ふに、短刀直入
は、可なり
なり?

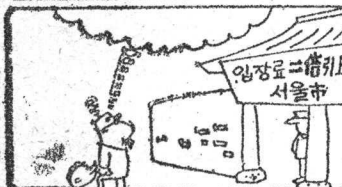
10/4



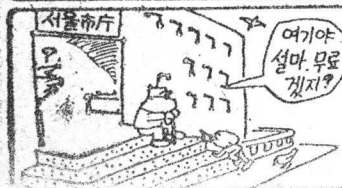
公園



公園

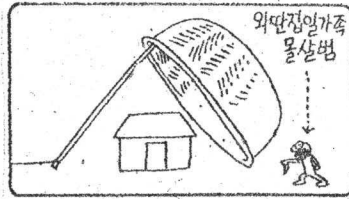


入場料 2천원
市

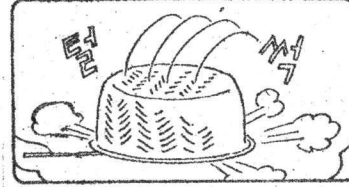
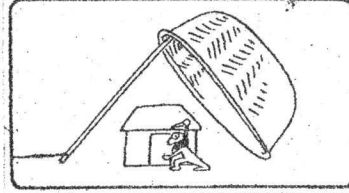


市
ここは、
無料か?

10/6



一家
殺し犯

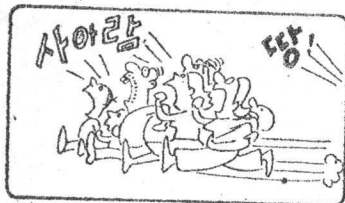


市

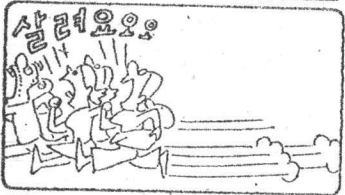


水
ここは、
必らず
治す部

코바우영감 (6531) 김성환



10/7
7-2
F-F-F...



F-F-F-F-F...



한-度
何、今何也
ハカ

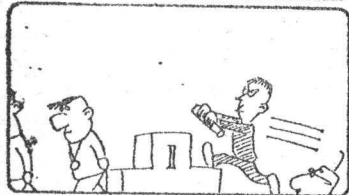


一遠所の人々
ハカニ殺人犯
隠匿を訓練
シテハカカ

코바우영감 (6533) 김성환



10/9
田徑投擲
圓石新記
刷新
三十一



何ノ記録ナリ



是レハハカニ
殺人ノ記録
トシテハカ
ナリ、警察
官ヲ
召ス



코바우영감 (6532) 김성환



10/8
國力培養
爲メ新
金を
5年間
シテ
下ル



今後1年間
シテ
下ル
ハカニ
下ル

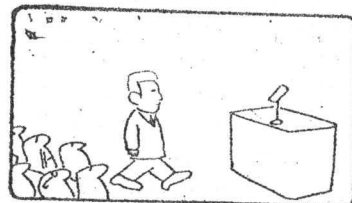


今ハ2週間
シテ
下ル

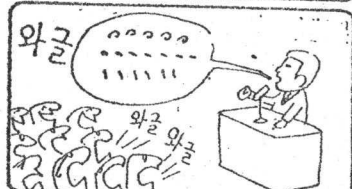


何、夢
ナリ

코바우영감 (6534) 김성환



10/10



7-7-7-



議員自暴
不
除
命
ト
思フ



議員發言
研究
ヲ
行フ

新しい方向を拓く歌謡界

＝禁止曲選定発表の波紋＝

東亞日報

1975.10.4. 第5面

○レポート検閲前製作ブレイク

○歌謡には叙事詩と……

韓国芸術文化倫理委員会(委員長趙煥鎰)は2日、大衆歌謡48曲を禁止曲と決定するとして、国内歌謡に対する退廃歌謡選定作業を全て終了した。

芸術は先に、国内に入ってきた外国的なソング歌謡についてその退廃性^の可否を審査、禁止措置を行う方針であることを明らかにした。

今回の三次審査対象曲数は68年から73年まで芸術で審議されたレポート~~の~~全部で18,726曲であった。

芸術は去る7月12日二次禁止曲決定の発表以後、7月15日から歌謡レポート合計E通した17回の審査会議を終りに60曲を選定、9月12日本審に移した。

9月29日、芸術審議室で開かれた本審(特別審議委員会)では、本審委員と芸術委員が同席して最終審議を進行、60曲のうち12曲を除き、お告げの「旅の居酒屋」等48曲を低俗退廃憂鬱感助長、虚無、悲嘆調、冷感調、稚拙等、不適切な理由をあげて、禁止措置をとった。

これにおいて芸術は一次で130曲、二次で44曲、三次で45曲等、全部で222曲を禁止曲として決定、放送、公演、販売行為ができませんようにした。

三次にわたる禁止曲審議対象曲数は一次で1,685曲、二次で3,156曲、三次で18,726曲等全部で23,567曲であった。

今回の審議で48曲を禁止曲として選定されたが、特異に歌謡界の関心を持てたいところ、現在ヒットした曲は見当らない。

歌謡界の関心を持てたい曲は1、2次審査で該当した74、75年度分に含まれていないと見られる。

今回の三次審議の対象となった73年度以前の歌謡とそれ以後のものを比較すると、退廃性の濃度は昔のものが最近のものより強いと云えるが、低俗性は同様

だといふのが、審議委員の意見であった。

今回の三次にわたる芸術の選定作業で歌謡界はこれに対応する新しい方向を摸索していることは明らかである。

そのレコード製作業界の革新製作傾向が完全に定くなり、事前審議を終了後にレコードを製作する新秩序が確立された。従って審議申請の量が過去に比して約3倍に増えている。

第一に、セマウル（新しい村）の歌等宣伝歌謡も収録したレコードが尋常のペースで出ている。

第二に、純粋詩人の詩集から抜萃して審議に提出するレコード作詞人があつた。有名な作詞者らの安定的歌詞が提出されているという実態である。

< 大衆歌謡 48曲 禁止 >

— 東洋日報 1975.10.2. 7面 —

韓国芸術文化倫理委員会付 2日、南珍の「貴方も金持ち」等、大衆歌謡48曲を禁止曲として決定、発表した。

芸術文化倫理委員会の浄化運動以後、一次で130曲、二次で44曲、を禁止曲として決定したのに続き、今回さらに48曲も追加されたので、全部で222曲を禁止曲として決定した。

◆ 禁止曲

- ▲ 捨てられた女 ▲ いつかの愛 ▲ 旅の居酒屋 ▲ 歲月 ▲ 未だいふな
- ▲ 愛のつれ ▲ 夜にふれはいつまで ▲ 悲しい愛 ▲ 一人の女 ▲ 捨てた女
- ▲ 私を泣かせ ▲ 女を来たな? ▲ 仕事しなげは愛もはな
- ▲ 日かたつはいつまで ▲ 涙けろい ▲ 備達山で語っておくれ ▲ 私の名は愛
- ▲ 傷口 ▲ ホトコシ ▲ 泣いておくれな歲月 ▲ 燈台のあたり、愛 ▲ 鳥よ
- ▲ 泣く女 ▲ 一杯に一杯の愛 ▲ 女のブルース ▲ 金かたは最高?
- ▲ 泣いてはいるが ▲ 太陽のうた ▲ こころはいつでも
- ▲ 女が程よく泣く女 ▲ 女をたけを愛して ▲ 今夜は泣きまじろ ▲ 貴方も金持ち
- ▲ 泣いてはいるが ▲ 世宗路ブルース ▲ 道に迷った女
- ▲ しねた女 ▲ もとらの愛 ▲ 涙のときおな
- ▲ 孤独な愛に泣く女 ▲ 帰り行く女 ▲ 女の泣き声
- ▲ 女の涙 ▲ こころはいつでも ▲ こころはいつでも
- ▲ 夢の表者 ▲ 女をたけを愛して ▲ 武橋洞の夜の街 ▲ 雨降る夜に
- 泣いて行く人 ▲ 思ふの書

千余撤去民示威

東洋日報 '75. 10. 7

警察官の阻止で解散

7日午前9時半頃、ソウル城北(성북)区東仙(동선)洞全11
一帯住民一千余名は、当局が、近所の金관중氏(42)所有家屋
など、10軒を撤去するのた抗議、示威をくりひろげたが、警察の
阻止で30分後に解散した。

住民たちは、この日撤去人夫と警察官が路地に入ってくよせ
るころ、煤炭のカス、ガラスビンなどを投げて撤去を妨害、警
察はペーパーフォック(煙草カス)を撃って、彼らを解散させた。

住民たちは、彼らが住んでいるこの一帯1万5千余坪が
誠信(성신)学園に払下がられたことは不当であり、縁故権の
ある自分たちに払い下がられて当りません、と主張、この日法院
の撤去命令によって第一次として取りこわされた金氏の家など
9軒の撤去を妨害したもの。

警察は、住民12名を公務執行妨害の嫌疑で連行した。

(訳注：今年春の強権的な行なわれている板子村(판서
동)取りこわし政策の一環として執行されたものと
思われます。)